

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	赤司 治夫
所属機関名	研究・社会連携機構 フロンティア理工学研究所
職位	教授
在籍年	35

教育の責任

フロンティア理工学研究所における責務は主として研究の実施にあるが、教育面においても大学院教育を中心に一定の役割を担っている。具体的には、大学院における無機・固体化学分野の教育に協力するとともに、学部からの要請に応じて、研究活動を通じた実践的教育にも参画している。例えば、卒業論文作成に関する指導を担当するなど、教育活動の充実に寄与している。

教育の理念

授業においては、まず受講者それぞれの事情や習熟度に応じ、当該学生が求める知識・技術の習得において、受講前と比較して確実な成長が得られることを目標としている。その上で、基礎的知識の習得にあたっては、それらの知識が確立された背景や当時の研究者の取り組みを紹介し、学習内容の背後にある文脈への理解を促すことを重視している。これにより、一見無機的に見える知識についても、その背後にある人間的営みを実感させることで、受講者の興味・関心の喚起を図っている。

また、大学院の講義においては、実際の研究活動に活用可能な知識の修得を常に意識した授業を行っている。

1. 受講者の事情・習熟度に応じ、受講前より確実な成長を実現することを重視
2. 基礎知識は、その成立背景や研究者の取り組みとあわせて教授する
3. 知識の背後にある文脈（ストーリー）の理解を促進する
4. 無機的に見える知識にも人間的側面を見出させ、興味・関心を喚起する
5. 大学院講義では、研究活動に直結する実践的知識の修得を重視する

教育の方法・方針

教育の理念を具現化するために実践している取り組みは、以下のとおりである。

まず、初回授業における受講者とのコミュニケーションを特に重視している。これまでに履修した関連科目の内容や、当該分野における基礎的知識の習得状況、さらには今後の自己実現に関する志向などを丁寧に聞き取り、講義内容とのすり合わせを必ず行っている。

実際の講義においては、受講者に対する細やかな問いかけとそれに対する応答の積み重ねを重視し、主体的に授業へ関与する姿勢の定着を図っている。これにより、学生の興味関心や理解度を把握しつつ、講義内容を適宜調整している。必要に応じて小テスト等を活用し、理解の定着度を確認している。

さらに、講義内容が当該分野の研究とどのように関連しているかを理解させることを常に念頭に置いて授業を展開している。特に大学院の講義においては、実践的な研究の場で活用可能な知識の修得につながるよう配慮している。

1. 初回授業における受講者とのコミュニケーションを重視し、履修済み科目、基礎的知識の習得状況、将来の志向等を把握した上で、講義内容とのすり合わせを行っている。
2. 講義では、受講者への問いかけと応答の積み重ねを重視し、主体的に授業へ関与する姿勢の定着を図っている。
3. 学生の興味関心や理解度を把握しつつ、講義内容を適宜調整している。
4. 必要に応じて小テスト等を活用し、理解の定着度を確認している。
5. 講義内容と当該分野の研究との関連を意識させることを重視して授業を展開している。

6. 大学院講義においては、実践的な研究の場で活用可能な知識の修得につながるよう配慮している。
教育の成果
多くの受講生の出席状況、小テストの結果に基づく講義内容の理解度、ならびに授業アンケートの結果等を総合的に勘案すると、講義の目標は概ね達成できていると考えている。
今後の目標
今後の目標としては、これまで実践してきた受講者との双方向的な授業運営を基盤としつつ、教育効果のさらなる向上とその可視化を図ることにある。具体的には、受講者の理解度や到達度をより精緻に把握するための評価手法の改善を進めるとともに、講義内容と実際の研究活動との接続を一層明確化することにより、学修成果が実践的な能力として定着することを目指す。例えば、講義前・講義後小テストの導入により、学習到達度の可視化を行ったり、授業ごとの短時間振り返り(いわゆるミニツツペーパー)の導入をしたりすることなどが検討できる。 また、受講者の多様な背景や志向に対応した柔軟な授業設計を維持しつつ、主体的学習をさらに促進するための工夫を継続的に検討・導入していく。例えば、研究接続型のミニ課題を行うことで、自分の研究と講義内容との接続性を意識させる方法などが、有効だと考えている。
根拠資料
小テスト結果・授業アンケート結果等